

ときめきの富士
竜が渡る空

10月上旬 朝 朝霧高原より



夜明の残光が稜線の雲達を

暖色に染めている。

空に広がる雨上がりの雲。

上空は気温が低い。

躍動する雲はうろこ雲になり、

やがて河となり竜に変化した。

青のグラデーシヨンは

上空になるほど濃さを増し、

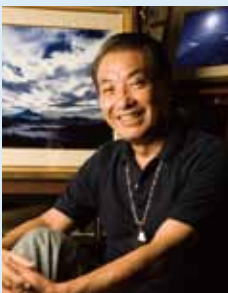
シルエットの富士が

両手を広げて楽しんでる。

ときめきの富士

写真家

ロッキー田中



誰も見た事のない「ときめきの富士」を生涯に99作世に出すオンラインワンの写真家。100km離れた東京で富士山・空・雲・光の表情を読み、山が呼んでくれたら逢いに行く。

作品は浮世絵の様な構図、色、究極の美に満ち富士山のメッセージが写っているとされる。

『現代の北斎』とも称され、平成15年に文部科学大臣賞受賞。富士写真家連盟特別顧問・講師。NPO富士山を世界遺産にする国民会議223フェロー。世界文化遺産登録にも貢献した。人々との喜びの共感を生き甲斐とし、サロンには全国から訪れる人が絶えない。

富士山が教えてくれた幸運の法則 その12

心に響く、いい言葉

「ときめきの富士の写真家」として歩き出してから二十年目に入った。直前までサラリーマンだった私には基盤は何も無い。ならば絆をゼロから創ろう。それは言葉のチカラだ。そう信じて疑わなかった。

何も持っていない私だが、青年の頃から変わらずに続けて来たことがある。いつも頭に「前向きのいい言葉」が浮かぶ。ずっとそれを声に出して来た。

富士山を通じて絆づくり開始。出会った人には「ご発展を信じていますよ」と言葉をかけて。ご注文のあった人に対しては、ポストカードや作品の額の背中、或いはカレンダーにその時に閃いたメッセージを筆で書き続けて来た。

メッセージを書いていると会った事のない人の顔が浮かぶ。その時に言葉が降りて来る。きくと受け取る人へのメッセージだ。そして書き終わるとその顔は消える。

あ、女の人だ。写真に見入っている。
お、年配の男性だ。小躍りして喜んでいる。
あ、青年だ。何度も言葉を見直している。



あるお母様からお手紙を戴いた。
嫁いだ娘さんに作品集を見せ彼女が選んだ写真は「いのち無限」。

ご主人の会社が閉鎖となり彼は休職中。先の不安やご主人への不満、生まれて来る子供の事も心配だったその奥さんに届いた言葉は「感謝無限大。あなたがいるから」だったと。旦那に対する気持ちが一変すると信じていますと書いてあった。

お母様のご主人が選んだのは「満天の流星」。届いた言葉は「いのちの輝きありがとう」だったらしい。ご主人は定年退職後に大



病を患い、ある医師に命を救われ一念発起、生まれ育った地元で恩返しをすると、地区の為に日々動いていらつしやる。
主人の目に「筋の涙を見ました。生かされている自分のいのちの意味を感じたそうです。としたためてあった。



お母様は息子さんにも作品を選ばせた。彼が選んだのは「虹の翼」。仕事で行き詰まっているらしい。額の背には「花咲け実れ志」。のメッセージ。

息子の心境そのものです。と書いてあった。ありがたく嬉しいお手紙を何度も読み返した。私は誰に何を書いたかは全く覚えていないが、よく今のその方にぴったりの言葉だったと言われる。

富士山に「ときめき」を付けた写真家になつて良かった。「感謝無限大」だ。
この言葉はときめきの富士と共に始まった。

随分広まって来たから嬉しい。

富士山に呼ばれて撮影に行くとき、「素晴らしい光で満たしてくれてありがとう」。「まだ未知の赤富士に逢いに行くよ」と天に言っている。

イメージに逢う為に山麓で何日も何時間も待つ事は無い。行くとなつて自然は友達、私と体。天も地も人もみんなつに繋がっている。

言葉のチカラは人だけでなく天地に響く。

だから最適のシーンに出逢うことが出来ると思う。それは全ての人々の各々の思いの実現に繋がる道でもある。

感謝無限大
Rakyo

『富士は晴れたり世界晴れ』

～この国の運命は、富士山、がぜんぶ知っている。～



ときめきの富士アートサロンから、ロッキー田中さんのサイン入りで送付します。送料 210円

ヒカルランド出版 1,750円+税

【お申し込み・お問い合わせは】
ときめきの富士アートサロン
●TEL/03-5740-6921 ●FAX/03-5740-6922
●HP/ ロッキー田中 または ときめきの富士 検索